

豊田工業大学 入学式 学長式辞

本日、豊田工業大学にご入学・ご進学された皆さんに、心から歓迎の意を表します。おめでとうございます。学び舎として本学をお選び頂き、有難うございます。ご家族の皆さまも、おめでとうございます。本年度、入学、編入学、あるいは進学をされて、本学のお仲間に加わられた方々は、学部1年105名、学部3年6名、修士1年47名、そして博士1年3名の皆さんです。

大学生活は、皆さんが、やがて社会人として活躍するための、大切な助走期間です。学修、研究、そして課外での諸活動を通して、社会人として世界に貢献してゆくための力を十分に鍛錬して頂きたいと願います。大学の主役は学生の皆さんですから、皆さんの活動が本学の活力の源泉です。念のために申しますが、大学での活動の主目的は、良い就職先を探すことではありません。ご自身の能力を本質的に伸ばすことです。これができれば、皆さんには、おのずと広範な未来が開かれます。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として、1981年に開学しました。以来、関連企業の皆様からのご支援に支えられ、本務である教育と研究に関し自由で闊達な活動を展開して参りました。2020年夏にはキャンパスリニューアルが完了し、教育と研究のファシリティが刷新されました。2021年には開学40周年を迎えています。この間のご関連の皆様方からのご支援とご鞭撻に、深く感謝申し上げます。

さて、本学は昨年度、「新長期ビジョン」をスタートさせ、これ迄に獲得した「蓄積・強みの錬磨」と「新たな挑戦」とによって、「国際産業リーダーの育成」と「研究成果の社会還元に寄与する大学」を目指しています。今年度はその2年目であり、ビジョン実現に向けての種々の施策において、加速を図っている最中です。本学には、小規模大学だからこそ実施可能な特徴的な仕組みが幾つも整っています。たとえば、国立大学相当の学生対教員比、潤沢な研究費と研究設備、学外実習、海外研修、工房、クリーンルーム、国際プラザ、久方寮と国際寮、などです。

私たちは、これらを生かしつつ、本学はもっと元気な大学になれると確信していて、その実現のために、「大学ですべき学修とは、単に知識を覚えるのではなく、真の理解である」という「フィロソフィ」の浸透を図っています。当たり前に聞こえるかも知れませんが、教育と研究の様々な場面で、全学的に、この「フィロソフィ」を具体化することは、簡単ではありません。しかし、本学は小規模な工学系単科大学ですので、学生の皆さんと教職員の皆さんとに、この「挑戦」の意義を理解頂いて、一緒に実践してゆくことは、十分に可能であると考えました。

「理解する」とは、「帰結」に対応した「理由」を自分で考えて手繰り寄せ、「帰結と理由の関係」に納得することです。「帰結と理由の関係を手繰る」という態度は、「論理的に思考する」ことですので、これを講義、実験・実習、レポート・試験等で実践することによって、「理解の束」が蓄積されるとともに、付随して「論

理的思考力」という「汎用力」も涵養されてゆきます。ただし、この「学修」には、学修法の工夫が必要です。

そこで、本学では、「帰結と理由の関係を手繰る」態度が学修活動の様々な場面で実践されるように、教員の皆さんは「学修指導法」を工夫する努力を継続しています。それら工夫の共有も進み、また、講義内容を振り返る教員レポートならびに各科目のシラバスには、「論理的思考力育成への工夫」を記述する欄ができています。それぞれの科目によって「やり方」は異なりますが、同じ「フィロソフィ」の実現に向けた「やり方群」が拡充されてきていて、それらを「豊田工大メソッド」として集約してゆく努力も蓄積されています。

さらに、「論理的思考力」を起点にして、異なる「汎用力」も涵養されます。思考を文章に纏める繰り返しは「論理的記述力」を育て、思考を言葉にする繰り返しは「論理的発言力」や「コミュニケーション力」を育てます。ただし、そのためにはこれらを試す場面を授業やレポート等の中に意識して設ける必要があり、その工夫も進めています。これら様々な「力」の獲得を実感することは、皆さんの「自信」も高めてくれるでしょう。「理解の束」と「論理的思考力」の増強は、「汎用力」としての「課題発見力」と「課題解決力」を涵養してくれます。これら二つの「力」の総和が「創造力」ですので、この重要な「力」も涵養されてゆきます。

教科書に記載のある既知の知識であっても、それが成り立つ理由を自ら手繰って理解に辿り着く道のは、私たちにとって「未知」への挑戦なのです。つまり、「覚える」のではなく「理解する」学修は、「研究」と同等の意味を持っています。したがって、理解する学修は、付随して、「研究力」をも鍛錬してくれます。だから、4年生での卒業研究にも、大学院での研究活動にも、皆さんは無理なく進んでゆける訳です。加えて、研究活動を通して、上記の種々の「汎用力」はさらに強められてゆき、社会人としての活動に大きく役に立つ「力」となります。経済産業省が言っている「社会人基礎力」も、基本的にはこのような「汎用力」です。

つまり、大学での「学修」と「研究」の活動は繋がっていて、人材育成を駆動する大学の「両輪」なのです。研究者になる積りのない学生の皆さんにも「研究」が必修である理由は、ここに 있습니다。また、ある学問分野で体系的に「理解の束」を獲得できた経験者は、他分野をも自ら修得してゆける「自己学修可能な人」になれるのです。つまり、「大学でサボってはいは、本当に、勿体ない」のです。

さて、大学は、皆さんが「人」として成長するための場でもあります。皆さんは、やがて社会人として、世界的な諸課題の解決に貢献する責任も負います。そこで、工学系単科大学である本学でも、「教養教育」は重要です。一方、教養とは、「知識の量」ではなく「心を磨く」ことであると思います。人生の様々な場面で眼前に到来する事象を、持てる知識と理解を駆使しつつ「自ら考える」ことによって、「心は磨かれてゆく」ように感じます。そのとき、「学修」と「研究」の活動で培うことになる「論理的思考力」等が、役に立つ筈です。論語にある「学びて思はざれば

則ち罔く、思ひて学ばざれば則ち殆ふし」は、同様の意味を語っているのでしょう。

これも論語の一節です。「子貢問ひて曰く『一言にして以て終身之を行ふ可き者有りや』。子曰く『其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ』と。」「恕」という漢字は、「如し」という字の下に「心」と書きます。「思いやり」の意味です。「恕」は「教養」の尺度として重要であると、論語は語っているようです。品位の「品」も「教養」の指標であると、私は思っております。

さて、人工知能、取り分け「生成 AI」の進歩が著しい状況です。人を遥かに凌ぐ「知識」を有し、人からの問い掛けに、瞬時に、尤もらしく、答えを返してくれます。実用も始まりました。AIは膨大な「知識」の持ち主ですが、その「知識」は「理解」へと昇華されているのでしょうか。人には「心」がありますが、AIにもあるのでしょうか。「教養」とは「知識の量」ではなく「心を磨く」ことであると、申しました。AIの世紀であるからこそ、私たちには、「自ら知識を理解へと昇華させる」責任と、「心」ある人として「自ら心を磨き続ける」責任とが、強く求められているのだと思います。SF 映画「2001 年宇宙の旅」で、宇宙船乗組員の命を奪った「HAL9000」のような「人工知能」を生み出してはならないからです。

豊田工業大学において、学修、研究、そして課外での諸活動に努力されることを通して、社会に新たな価値を届ける「工学者」になって頂くと同時に、世界の平和と安定を希求して止まない「心磨かれた人」にもなって頂けるようにと、願っています。私ども教職員一同は、そのお手伝いをさせて頂きたいと思います。そして、本学を構成する皆さん全員で、「進むなら、足跡のない方へ」参りましょう。

あらためまして、ご入学・ご進学、おめでとうございます。

2025 年 4 月 1 日

豊田工業大学 学長 保 立 和 夫